

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

124

2013. 12

- 夏のスタディツアー報告 . . . P. 4
- 31期研修生レポート . . . P. 6-7
- 帰国研修生短信 . . . P. 9-11

PHD 運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：公益財団法人PHD協会 理事長 今井鎮雄
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL：078-351-4892 FAX：078-351-4867
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会 01110-6-29688



ネパール バクタプル 撮影：T. SAKANISHI

ネパール・バクタプルにある岩村記念病院。
受付には今も岩村先生の肖像画が掲げられている。

今年はガハテ村の3人娘と訪問。
助産師となったミンクマリさん、助産師を目指すランマヤさん、
村で母として奮闘中のパッサンさん。

岩村先生の想いは受け継がれていく…

PHD Movement vol.8

～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

新章突入、ミャンマーでの活動

◆多角的に見えてきた村の様子

今年度は2009年度以来、久々にミャンマーへのスタディツアーが実施できた。これも民政移管の影響の一つと言える。昨年まではVISAの問題などもあり、今後の招聘については全く計画が立たない状況であったことを考えると大きな前進である。



昨年、村の中にNLDの看板が登場！

PHD協会としては、再開できたミャンマーでの研修生招聘事業をより実りあるものとするための試みの一つとして、昨年からはマンダレーYMCAとの連携を深めている。特に今年度の研修生モーママさんは、YMCAで保健衛生のボランティアをしていたこともあり、モーママさんの活動を通して、今まで見ていなかった村の様子が見えてきた。

例えば研修生の出身地域の偏りである。下記の表を参照いただきたい。

タダインシェグループ					
名前	地域	人口	研修生	平均	研修生
1 Taung Ywa	南	525	110	4.7	カインソー、テー、モーママ
2 Ywar Ma	北	555	107	4.9	ワイン、ムー、ミン
3 Mingalar	北	515	119	4.3	トントウン、スス、ティダ
4 Za lei Din	北	394	79	4.9	トントン
5 Nyaung Win	北	785	161	4.8	
6 U Yin Lay	北	1130	253	4.4	
7 Net Su	南	1800	293	6.1	
8 Ywar Thit	南	552	161	3.4	
Ta Tine Shye	計	6256	1283	4.8	

Taung Ywaからはカインソーさん(96年度)、テーさん(05年度)、モーママさん(13年度)。

Ywar Maからはウィンさん(92年度)、

ムームーさん(93年度)、トントウンさん(94年度)、ススさん(06年度)、ティダさん(07年度)。

Mingalarからはトントンさん(93年度)となっている。

Za Lei Din, Nyaung Win, U Yin Lay, Net Su, Ywar Thitからは招聘がない。

タダインシェ村は大きくはミャウ(北)タダインシェとタウン(南)タダインシェに分かれる。ミャウタダインシェの中心がYwar Maであり、タウンタダインシェの中心がTaung Ywaとなる。PHDの研修生は主にこの2つの地域から呼んでいる。



マンダレーYMCAの蚊帳に薬を浸す活動を見学

◆地域による差異

今年度の研修生モーママさんによると「Net Suは教育が低い。だから家族計画も遅れている」とのこと。確かにデータを見ると世帯数当たりの人数が約3～5人の他地域と比べて約6人と多い。しかしながら、モーママさんは次のように続ける。「でもNet SuはNGOなどのプログラムでも対象から外れることが多い。だから私は『Net Suも入れるべき』と主張している」。同じくモーママさんによると、子どもが多いと教育費などの問題だけでなく、中絶が認められていないミャンマーでは産科医での中絶などにより妊産婦へのリスクが発生することがあるそうだ。

ともかく、今では「タダインシェ村」としか認識していなかった村の具体像が見えてきた。今後はタダインシェ村

の中の遠隔地であるNet SuやU Yin Layからも招聘を実現し、よりタダインシェ村全体に研修の成果を普及していきたいと研修生と相談中である。

政治に翻弄されるネパールの研修生たち

◆ガハテ村の研修生と深夜まで語り合う

5人を招聘して第一フェーズが終了したガハテ村。今後の研修生招聘の可能性も残しつつ、今後はフォローアップに力を入れていく段階となった。

しかしながら、今回の訪問では日程の都合で、ガハテ村には一泊しか宿泊することができなかったため、限られた時間でしか話し合うことができなかった。

その短い時間の中でわかったことは、研修生たちは政治に翻弄されているということだった。ガハテ村ではネパール保守派と共産党系の政党の2つが力を持っている。ネパールの村はどこでも政党の存在が確認できるが、それはせいぜい選挙の時ぐらいである。

しかしながらガハテ村では政党が日常関係に色濃く影響を及ぼす。詳細を書くスペースはないが、研修生たちは属する政党の色で見られており、他のグループから敵視されているという状況にある。よって、一般論として「若いから信用されない」以上の疎外感があり、それらを打ち破るのは並大抵のことではないようだ。



夜のミーティングの様子

◆今は雌伏の時

前述のようにガハテ村には地形や水の問題以外にも困難な点がある。しかしながらその中でも希望はある。

まずご存知のように2010年度の研修生ミンクマリさんが助産師のライセンスを取得した。ウルミラさんの後を追いかけて、見事に1st Divisionという最も優秀な成績で合格している。現在は、ガハテ村からは遠いところで仕事をしているが、近い将来は「ガハテ村のために働きたい」と意気込んでいた。

また2012年度の研修生ランマヤさんもミンクマリさんの後を追うようにして助産師の学校の入学試験に150人中8番という優秀な成績で合格した。資格取得までには2年かかるが、ミンクマリさんと同じく今後は楽しみである。

次にパッサンさんだが、現在は商学部に進んでいる。本人曰く「会計などを勉強して組合の活動に役立てたい」とのこと。理想的には修士まで進みたいそうだ。素晴らしい能力を持つ彼女のこと、きっと成し遂げてくれるだろう。またアチャンマさんは教育学部に進み、教える能力を向上させたいと言っていた。



これからガハテの研修生たちはどんな道を歩むのか

◆14年後に開花する人も

見ようによっては停滞とも言えるガハテ村の状況だが焦ることはないと思っている。例えばミャンマーにトントウンさんという人がいる。94年度の研修生で、帰国後数年は村でがんばっていたものの、結婚後は村を離れ、ホテルで働いたり、マレーシアで出稼ぎをしていた。村での活躍を期待してい

るPHD協会としてはあまり喜ばしい状況ではなかった。



活動について熱く語るトントウンさん

しかし2009年、彼はヤンキンというHIVの予防やケア、DVなどに対応するNGOを立ち上げた。現在ではミャンマー政府とも上手に付き合い、地域でかなりの存在感を發揮している。帰国後、実に14年後のことである。

必ずしも短期的なスパンでの成果を求めない、息の長い活動も当会の強みの一つだと思う。このような視点でガハテ村の今後も見守っていききたいし、PHD協会としてできる協力はしていきたいと考えている。

◆小さい希望も

パッサンさんが新しく取り組んでいることにコーヒー豆の栽培がある。

なんとかして現金収入が必要だと考えたパッサンさんは実の父に相談し、成功しているコーヒー豆をガハテ村でもつくることを考えた。現在は約170本を植えており、日影を好む特性を生かし栽培している。本人は「これがうまくできたら皆に苗をあげたい」と言っていた。あまりの献身性に思わず「安価でも売った方がいいのでは？」と本来慎まないといけない余計な意見を言ってしまった。

各研修生の進学や資格の取得は、それぞれが持っていた種を大きく発芽させることになるだろう。それは前述のような政治的な状況を乗り越える力にもきっとなるはずだ。そして、現金収入が必要な今、パッサンさんのコーヒーは篠山ナマステ会さんのオレンジの様に、将来への希望を持たせてくれる。

研修生がそれぞれの能力を開花させ、安定した現金収入を得るまであと約5年はかかるだろう。今はじっと我慢の時期と研修生と夜遅くまで話し合った。数年後、どんな花を咲かせてくれるか楽しみである。



ガハテの新しい希望のコーヒー

提唱者

温故知新 岩村昇語録

～私の自戒～

私の自戒ですけど、アジアのニーズを自分が解決しようと思うからダメなんです。PHD協会が解決するのではなく、PHD運動を使っただけ。アジアの村とPHD協会の関係だけではパイラテラル(2国間)なわけで、そこに国内にある、例えば有機農業における生産者と消費者の関係に結びことでマルチな関係のつなぎ役、ファンクションとしていただく…。



(PHD LETTER 22「PHD運動の役割とは」より抜粋)

上記は今井理事長との対談の中での岩村先生の発言です。そして今井理事長は「私たちがすべてできるなんて思ったらそんな傲慢はないわけで」と応えています。

また岩村先生は「アジアの国々は後進国じゃないんですよ。地球がより豊かに生きのびられるかという文化は彼らの方がよっぽど豊かですから。PHDの働きにしても援助でも協力でもないんです、交流なんです」とも仰られています。

PHDの根底にある岩村先生の思想。深い共感とともに今後も実践していきたいです。

夏のスタディツアー報告

この夏は、ネパール（7月27日～8月5日）と4年ぶりのミャンマー（8月20日～28日）に出かけました。参加者レポートから一部抜粋でお届けします。

ネパール・スタディツアー

■□佐藤 雅美さん（弥富市・教員）□■
ピンタリ村

人が生活を自立させようとするれば、まず水・食料だ。確かに塩などの産地は特殊だから、すべてを賄うことはできない。ここでは米、トウモロコシ、野菜などは大丈夫。家畜を利用して動物性タンパクも何とか摂れる。食料が生産できるのは大きいのだ。この点「都市は自立できない」。なのに今の時代、都市の方が偉そうにしているようだ。水のエネルギーを発電、製粉に利用しているのは立派。



ただ、今の社会、食料と電気があれば生活できるとは限らない。衣料も自分一人ではまずできない。学校へ行けば教育費、医者にかかれば医療費、などなど現金が必要なものに村も組み込まれている。あまり必要だとは思わないのだが、最近では携帯電話などの通信費などもかかってくる。仕方なく現金収入を得るものを採らねばならない。畑と労働力に余裕があれば、特殊農産物をたくさん作り、市場に出すという手もある。

携帯電話ではないが、特にどうしても必要とは思われないものでも、一度生活の中に

入るとそれなしには過ごせなくなってしまう。そうして必要となる現金を求め、外に働く場所を求めていく。そうすると今まで自立していた村の生活は苦しくなり、下手をすれば自立できない状態にまで落ち込んでいく。こうして日本の農村もどんどんつぶされていった。まさに「限界集落」の出現だ。どうしてこうになってしまうのだろうか。自立を妨げる

「何か」があるようだ。人々が自立に向かって進み始めるのを阻止したい勢力があるに違いない、と思えてくる。さて、どうしたものか。

ガハテ村

PHDとの関わりでいけば、村に帰った研修生の活動が気にかかった。日本で研修したことを村人に伝えようとしても、うまく伝わらないことが多いというのだ。人は元来保守的なところがあって、今までの生活を簡単に変えようとはしないものだ。だから研修生の提案も、よほど腹に落ちないと受け入れられない、というも判らないではない。教育でもそうなのだが、そうした時は提案する側がまず実践で成果を上げ、現実として証拠を提出することが大切だ。だから提案するということは人一倍大変である。若い研修生にとってはシンドイことなのだが、厳しい状況の中でも自分を高めようと頑張っ

ている、という印象を受けた。つらいこといっぱいあるのだろうけど、これからも村に対していろいろな提案をし続けていってほしいと願う。彼らを勇気づけるような日本からの支援も必要かもしれない。



ガハテ村の4人

おわりに

「ネパールはどんなところ？」などと人から聞かれる。「ネパールは〇〇な感じ」などと答えることはできない。しいて言えば「人々がさりげなく、精一杯生きているところ」としか言いようがない。

人々の総体として「国家」をとらえていると、「国家」対「国家」という構図で、単純にものを考えてしまうようになる。そこに暮らす人々の姿が見えなくなってしまうのだ。最近の日本の政治状況を見ると、「共に暮らす人」の視点が欠如しているようで、とても危険な感じがしている。ネパールと言われた時、すぐにピンタリ村やガハテ村の人たちの顔が浮かぶような自分でいたいと思っている。

として、やはり食生活が関係しているのかという印象をもちました。2010年のミャンマーの平均寿命は64.4歳なので生活習慣病については、これからも目が放せません。



ミャンマー・スタディツアー

■□寒者 恵さん
（三木市・PHD協会評議員） □■

タダインシェ村では、食事を作るところを村の人に見せてもらいながら、調味料に砂糖は使わないこと、塩や味の素もたくさん使わないようにしていると村の女性は、話してくれましたが、それならなぜ糖尿病や高血圧の人が多いのか不思議でした。

その後村の中のいろいろな家を訪ねていくうちになんとなく見えてきたものがありました。おやつとして出てきたものは、揚げバナナに

砂糖をまぶしたものや甘いジュース、牛乳（いずれも砂糖入り）、ドライマンゴーに砂糖をまぶしたものなどおいしいけれどあまーいおやつが、いっぱい出てきました。砂糖は、料理に使わずにおやつ類に使用するそうです。また料理に塩を使わない代わりに、魚醤（ナンプラー）様の味噌にして利用したり、塩辛などを調味料として使っていました。魚の料理や緑色のすっぱいスープなどは特に塩を多く使うと話してくれました。薄味にしようとする、だんな様からお叱りの声が出るそうです。糖尿病や高血圧の原因のひとつ

第17期国内研修生レポート

10月からスタートした本田さんをご紹介します！また、4月からの国内研修生である石川さんには、これまでの振り返りも聞いてもらいました。

10月1日から
スタートしました！

本田愛さん



国際協力へ私の一歩

幼い頃より保育士である母の姿を見て、私も保育士になりたいと大学で社会福祉を選択し、卒業後4年間保育士として働きました。しかし保育士という子どもを育てる仕事にやりがいを感じながらも、母の後追いをしているようで、保育士としての自分の目標を立てられず、以前より心のどこかにあった国際協力に関わりたいという思いに突き進んでみようと思いを辞めました。

まずは実際に自分の目で見て、感じ、体験したいと思い、昨年の夏より10ヵ月間ネパールに行きました。ホームステイをしたり、ボランティアとしてネパールの人と関わる中で、支援とはなんだろうと疑問を持ち、自分の中でわからなくなりました。また便利を追



みんなで水力発電のお掃除

及している自分の生活に疑問を感じ、日本人が学ぶべきことも多くあるのではないかと思いました。

帰国後、自分がこれからどのように国際協力に関わっていくのか、その一つの道であるNGOとはどういうものなのか知りたいと思い、国内研修生に応募しました。

学ぶこと、感じる事がいっぱい

PHD協会での活動や海外の研修生と共に過ごす中で、国際協力に関すること、日

本で行われていること、自分の生活のこと、日々気づかされることが多く、自分の知識のなさを痛感しています。日本人として学ぶべきことがたくさんあると感じ、この機会をいただけたことは、私にとってとても貴重なことだと感じています。NGOの活動や運営について学びながら、様々な人に会い、その方々の活動や生活、生き方を知り、学ぶ中で、この学びや気づきをこれからどう生かしていくのか、自分なりの国際協力との関わり方、これからの自分の生き方について考えていきたいと思います。よろしくお願ひします。



人形を使って男女の身体の違いについて勉強



石川裕美さん

ネパールスタディツアー

7/25～8/4の日程でネパールスタディツアーに参加してきました！今回のツアー参加の目的は「研修生の村の生活の様子を知ること」。ピンタリ、ガハテと2つの村でホームステイをさせていただき、毎日の水汲みの大変さやゆったりと流れる村の時間を肌で感じる事が出来ました。

この旅でのもうひとつの大きな収穫が、帰国した過去の研修生たちに出会えたこと。厳しい環境の中、村のために懸命に頑張る彼らの姿を見て、この人たちと一緒に頑張っていきたいと気持ちを新たにしました。これからの研修への大きなモチベーションとなりました。



ピンタリ村のお母さんたちと

これまでの研修を振り返って

スタディツアーの他にも農業研修へ同行したり、NGOスタッフ向けの研修や勉強会に参加したりと日々貴重な経験をさせていただいています。

農業研修では、田植えや草取りなどを研修生と一緒にさせていただき、短期間でしたが食べ物を作るための苦労や指導者の方の有機農業にける思いを知ることができました。

JICAとNGOが連携したコミュニティ開発

研修にも参加し、日本の農村や釜ヶ崎、被災地等で活動する団体を訪問する機会をいただきました。そこでの出会いや日々PHD協会の研修生たちと過ごす中で、日本の社会の現状や問題が見えてきて、意識の変化に驚いています。

私に足りないこと、これから勉強したいことも少しずつ見えてきたので、残りの期間でも多くのことを吸収できるよう頑張りたいです。



大森さん宅で研修生と田んぼの草取り

31 期研修生レポート (今里拓哉)

個々の専門研修を経て…

共通研修

生活協同組合コープこうべ/協同学苑・エコファーム (三木市/協同組合)

プレムさん

(38歳・ネパール)



真柴さんから飼料の指導を受ける

わたしは いままでにはほんの いろんなところでゆきのうぎょうの べんきょうしました いちばん よかったは やさいの なえ うえる 1かげの まえ はたけ たかやばからしらい ビニール かぶせると ゆるい さいきん します。 いいさいきんは たくさんになります。 くさも すくないです。 それから たくさんのうやくと かかく ひんやをつかうと はたけの つちが かたくなります。 あとのうやくをつくらば やさいを たべると ひとの からだも びよきになります。 これは にほんで べんきょうして わかりました。 これを むらの のうみんたちに おしえて、 ゆき やさいをつくりたいです。

プレム ラマ
ネパール

6月～10月の研修

- 寺田まさふみさん (豊岡市/野菜・米)
- 渋谷富喜男さん (神戸市西区/野菜・肥料)
- 吉田等司さん (篠山市/米・野菜)
- 藤井誠次さん (神戸市北区/養鶏・野菜)
- 真柴三幸さん (佐用郡佐用町/飼料・肥料)
- 篠山ナマステ会 (篠山市/野菜・土壌改良)
- 滞在: 小嶋英毅さん、山岸永子さん、松本清一さん
- 橋本慎司さん (丹波市/養鶏・野菜)
- ステップハウス (高砂市/ハンディキャップガイド)
- 上垣敏明さん (養父市/養鶏・養蜂)

普段口数は少ないけど、絶妙なタイミングと発言で皆の笑いを誘う、「お茶目なお父さんの存在」のプレムさん。農業経験が豊富で、有機農業のトレーニングをネパールでも受けた経験を持ちます。「日本での農業研修内容の飲み込みが早い」と指導者の方々からの評判です。本人曰く、「日本での研修は学びが多く、改めて有機農業の意義や大切さに気づくことができた」と。

プレムさんは、マンガルトール地区から最初の研修生であり、今後同地区から招へいする研修生のまとめ役としても期待されています。研修の後半に予定している公害学習や平和学習などの共通研修を通して、便利さや合理性を追求した日本とは異なる発展の方向性や、PHD協会が目指す「共に生きる社会」についての理解を深めてもらうことが重要であると考えています。



ポカシ肥料の配合を勉強中

モーママさん

(22歳・ミャンマー)



産院にて研修

木の 木村は こうけつあつと とうよう びょうが おおいです。だから 私は 日本で 保健課について べんきょうしてあります。木の 木村は しお、せとう、あぶらを たくさん つがいます。日本は あまり つがいません。また 私は 日本では について も べんきょうしました。は は と こも だいいです。木の 木村は はについて あまり わかりません。だから おしえて たいと おもいます。たてえば → はみが きましよう。こどもたち あまいもの たべるとは あまり よくない。木村は 日本人の いきかたが とこも いいと おもいます。たてえば ゴミを みちに すてませんとが ゴミばこがないときは じぶんの かばんの なかに いれて もって いきます。

モーママ
ミャンマー



6月～10月の研修

- はらっぱ保育所 (西宮市/保育・保健)
- 滞在: 前田公美さん
- しょうぶ園 (名古屋市/老人介護)
- いしがせの森 (名古屋市/産児制限)
- たかくら幼稚園 (名古屋市/集団保育)
- 滞在: 渡辺観永さん
- PHDひだ友の会 (高山市/応急手当・野菜)
- 滞在: 石原辰雄さん
- 丹南健康福祉センター (篠山市/保健全般)
- 滞在: 松本清一さん、本荘賀寿美さん
- 円谷豊子さん (篠山市/野菜・肥料)
- 松江健康福祉センター (松江市/保健全般)
- 滞在: 佐藤玲子さん、犬山シゲコさん、林満智子さん、中尾千代子さん、斎藤左知子さん、山木勝子さん、長谷川健美さん
- シオンの園 (隠岐郡/保健・保育)
- 滞在: 佐倉真喜子さん
- ステップハウス (高砂市/ハンディキャップガイド)
- 滞在: 神吉道子さん
- HIVと人権・情報センター (大阪市/エイズ)
- 滞在: 石川裕美さん

血圧計の使用法を勉強



感情豊かで、浮き沈みの激しいモーママさんですが、切り替えも早く、常に周りの状況に気を配りながら、他の研修生たちを引っ張り続けてくれています。出身村ではボランティア活動の中心的存在で、日本でその活動に必要な知識や考え方を磨いています。それは保健衛生や保育だけに留まらず、村の有志で築いた図書館をマネージするための研修や、エイズに関する啓発研修など、多岐にわたっています。

今の悩みは、帰国後の身の置き方。これまでのように家の農作業を手伝う合間に、村で無償のボランティア活動を続けるのか。それとも村の外でソーシャルワーカーなどの職を求めるとか。希望は村で大好きなボランティア活動を続けながら、少しの収入を得る。その方法を模索しています。

ダリスマンさん

(21歳・インドネシア)



寺田さんから発酵の説明を受ける

私は今まで日本で ゆきのうぎょうの べんきょうを 6 かげつしました。たてえば にわとりの ぐさの つくりかた とか しぼがし ひりょうの つくりかたを べんきょうしました。でも木村は今まで どちやくきんと てんけいりくじゅうと に ゆきさんさんの つくりかたの べんきょうが いちばん かんたんです。これは たいせつと おもいます。

でもインドネシアの木村の むらでは たくさんの うやくと ががく ひりょうを はたけに つがいます。だから 日本で 1年かん ゆきのうぎょうの べんきょうして むらに かんていから じぶんで どちやくきんと てんけいりくじゅうと に ゆきさんさんを つくります。それから はたけに つがって つちと やさいを げんきに します。ゆきの やさいも つくります。

ダリスマン
インドネシア
にし ストラ

6月～10月の研修

- 中野宗嗣さん (氷上郡春日町/酪農・野菜)
- 上垣敏明さん (養父市/養鶏・養蜂)
- 大森昌也さん (朝来市/米・野菜)
- 坂口典和さん (篠山市/野菜・肥料)
- 真柴三幸さん (佐用郡佐用町/飼料・肥料)
- 寺田まさふみさん (豊岡市/野菜・米)
- 橋本慎司さん (丹波市/養鶏・野菜)
- 泉精一さん (松山市/土壌改良・肥料)
- ステップハウス (高砂市/ハンディキャップガイド)
- 滞在: 神吉道子さん



上垣さんから鶏の飼料について勉強

マイペースでお話し好きなダリスマンさんですが、本人曰く、「村では大人しい方だった」と。幼い頃に父親を亡くし、祖父や村の男性たちの農法を見よう見真似で農業を実践してきており、これまで誰かから農業を教わる機会はありませんでした。日本での研修を通じて農業を体系的に学ぶことの大切さに気がついたダリスマンさんは、積極的に研修内容を吸収しています。

ダリスマンさんの家は経済的に決して余裕があるわけではなく、彼はこれまでも炭鉱で働くなどして、家計を支えてきました。帰国後は家の畑で日本で学んだ有機農業を実践することを望んでいますが、そのためには出稼ぎに頼らない農業経営の模索が、今後の課題となります。



土着菌の培養を勉強

日々是東西走

研修担当 今里拓哉

研修生から気づかされる 岩村先生の教え

今年も兵庫県高砂市にある生活介護事業所ステップハウスにて研修を受入れていただきました。ここは身体にハンディキャップを抱える方々が仕事や機能訓練、レクリエーションなど様々な活動を行う施設で、1999年から多くの研修生を受入れ続けて来ています。

私がステップハウスをはじめて訪れたのは昨年、インドネシアからの研修生アドリザル（デリ）さんとネパールからのアチャンマさんの受入れをお願いする際でした。正直に申し上げて、その時はステップハウスでの研修の意義をよく考える間もなく、受入れをお願いしていたのを覚えています。確かに研修生たちの出身村や地域にもハンディキャップを持つ人たちはいるでしょうが、日本の設備の整った介護現場で実習をさせていただいたとして、その学びを活かすことは難しいのではないかと思います。

しかし研修を終えたアチャンマさんの「ステップハウスは岩村先生の教えと同じです」との言葉に考えさせられました。さらに「元気な人も、そうでない人も、みんな助け合いながら生きていきます」と。今年、既に研修を終えたプレムさんも、「ネパールでハンディキャップを持つ人の多くは家の中だけで過ごし、食事を与えられ、食べて寝るだけです。しかしステップハウスでは、ハンディキャップを持つ人たちが集まり、共に話し、歌い、買い物し、仕事をして、お金をもらいます」と。誰しもが社会の一員であることの大切さに気づかされたと言います。

そしてモーママさんは「ステップハウスでは、できることは自分でしてもらいます。例えばスプーンで食事をすくうことは困難でも、スプーンさえ渡してもらえたら自分で口まで運ぶことができる人には、スプーンを渡すところまでしかサポートしません。これはとっても時間がかかります。でもステップハウスのスタッフは待ちます。これはとっても大切なことだと思います」と話してくれました。

聞くとところによると、モーママさん

が出身村の保育園のお手伝いをする際には、食事やおやつをさっさと済ますために、子どもたちが自分で食べることができたとしても、モーママさんが食べさせるそうです。

たとえ時間がかかったとしてもできることは自分でしてもらおう。逆に言えば、たとえ短時間で済むとしても、安易なサポートは行わない。これは安易にモノや金の支援をするのではなく、時間を要する人づくりの大切さを説いた岩村昇先生の教えに通ずるのではないのでしょうか。介護現場実習という貴重な経験をさせていただく中でしか得ることのできない研修生たちの学びから、大きな気づきを与えられました。



ステップハウスの皆さんと

PHD 活動紹介 7月～10月末



7月

- 2日 関西NGO協議会 理事会 (坂西)
- 12日 コープ鶴越コープ委員会 (坂西・研修生2名)
- 13日 ネパール・スタディツアー説明会 (坂西・井上)
コープこうべ第3地区「平和を願うつどい」バザー (芳田)
- 20日 ミャンマー・スタディツアー説明会 (坂西・今里)
- 21日 加東市連合婦人会 (今里・芳田・研修生3名)
- 24日 淡河小学校交流会 (今里・研修生3名)
- 27日 ネパール・スタディツアー ～8月5日 (坂西・井上)
- 28日 米山記念奨学会 歓迎会 (今里・研修生3名)

8月

- 3日 ソディ例会 (芳田)
- 5-6日 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー (今里)
NGO相談員として (坂西)、販売 (芳田)
- 8日 職員研修 会報123号読み合せ
- 19日 コープこうべ職員研修 講義 (坂西)
- 20-28日 ミャンマー・スタディツアー (坂西・今里)

9月

- 3日 関西NGO協議会 理事会 (坂西)
- 7-16日 インドネシア出張 (坂西・芳田)
- 19日 神戸女子大学 学生6名来訪 (坂西・井上)
ラジオFMわいわい 出演 (坂西)

- 21日 ボランティア会報編集会議 (芳田)
 - 26日 JICA研修 講義・引率 (坂西・今里)
 - 27日 ソムニードオープンオフィス (坂西)
 - 30日 神戸NGO協議会 例会 (坂西)
NGO-JICA協議会 (井上)
- ### 10月
- 1日 ファンドレイジングセミナー (坂西・井上・今里・石川)
 - 3日 NPOステップアップ連続講座 (坂西・井上)
 - 4日 大阪経済大学フォーラム (井上)
 - 5日 ソディ例会 (芳田・本田・石川)
 - 5-6日 グローバルフェスティバル (井上)
 - 9日 篠山ロータリークラブ 卓話 (井上・プレム)
 - 12日 神戸市シルバーカレッジ学園祭 (本田)
 - 16日 中田豊一氏による指導 (坂西・今里・石川・本田・研修生3名)
 - 18日 関西NGOネットワークミーティング (坂西・石川)
川西ロータリークラブ 卓話 (今里・モーママ)
神戸西ロータリークラブ 卓話 (井上・ダリスマン)
 - 19-20日 野草と茸の会 (今里・石川・本田・研修生3名)
 - 21日 姫路東ロータリークラブ 卓話 (坂西)
 - 23日 明石ロータリークラブ 卓話 (井上・モーママ)
 - 24日 ラジオFMわいわい 出演 (今里・石川・研修生3名)
 - 25日 ガールスカウト大阪府連盟 (坂西・今里・石川・本田・研修生3名)
 - 28日 全日本自動車産業労働組合総連合会 授賞式 (坂西)
 - 29日 関西NGO協議会 理事会 (坂西)



ティンアンウィンさん (92年度)

国際NGOであるCARE等のNGOで働くが、来年には契約が終了し、家族と一緒にマンダレーへ戻る予定。本当はタダインシェ村に戻りたいものの通院の必要があるため難しそう。今後は帰った研修生たちへの参加型開発研修などを計画中。



ヌーシューティンさん (06年度)

ティダさんたちと一緒に図書館を建設中。自作のシャンプーなどを販売して資金にしており、完成を目指している。他にはお坊さんの学校で夏季合宿のボランティアや、家庭教師など、子どもたちに勉強を教え続けている。また農業や道の舗装など、地域活動にも積極的に参加している。



トントンさん (93年度)

2年ほど前からバゴー管区の町から16km離れた所に住む。牛を8頭飼っている。農作物は、米、豆、マンゴー(700本)などで、主な収入は米から。肥料は主にボカシで、ワラ、鶏糞、牛糞、米ぬか、土着菌などを使用。少しずつ土壌改良を行い、周りの農家にも有機農法を広める考え。

また地域外への研修旅行なども企画している。「自分の村しか知らない人が多いから良い刺激になる」とのこと。



ティダさん (07年度)

2004年から働いているタダインシェYMCA保育園で、80人以上の子どもたちをみている。16人いるタダインシェYMCAボランティアのリーダーでもある。月1、2回、AIDS、下痢、マラリアなどの啓発活動を行っている。いずれは、自分たちの保育園を作りたいと考えている。

ミャンマー 帰国研修生短信



トントウンさん (94年度)

マンダレー郊外でNGOヤンキン(安全)を立ち上げ、HIV感染者の生活向上や子どもの人権、結核対策、保健教育活動などに取り組んでいる。今は10名ほどのメンバーが活動しており、政府とも連携を行っている。

今後はエスニックマイノリティにも活動を広げたいと考えている。現在「HIV感染の減少及びHIV/AIDSとともに生きる人々のQuality of Life(生活の質)の向上プロジェクト」を計画中。



ケンタウフさん (03年度)

6年前からマンダレーの薬科大学の事務として勤める。夜には子どもたちに対して、お坊さんの本を読むなどの活動を行う。また今心配なことは歯の健康。子どもたちへの啓発活動をしたいと考えている。



スウエインさん (02年度)

カイソーさん (06年度)

息子2人と共に暮らしている。主な収入はマンゴーで、中国へ輸出している。村で始めたマイクロクレジット(小規模融資・元本50万kyat)を大きくして、その利益を村に還元したい。

他には、村に保育園を作りたい。子どもたちは家に居て友だちもいないし、お母さんも世話で忙しいから。



ソーウィンさん (04年度)

父と2人でイエボ村で農業を営む。米の他、マンゴーやレモンは接ぎ木を行い、多種類を栽培している。



タウンシュエさん (05年度)

タダインシェ村で農業に従事している。日本で除草剤が土へもたらす悪影響について勉強し、それ以来使用していない。農業グループを作り、これからも地域の人たちに日本での学びを伝えたい。



ハラト・ヒスタさん (82年度)

サマセワサムハ (SSS) を設立し、現在も代表として診療所運営等の NGO 活動に取り組む。またミンクマリさんを助産師として派遣した団体の代表も務める。



ミンクマリさん (10年度)

今年7月に1st Divisionという最も優秀な成績で試験に合格し、助産師に。ガハテ村で初の助産師ということで、両親やおじいさんも大喜びとのこと。ガハテ村から歩いて5時間のThulipandhera村Thulipandhera youth clubで助産師として活動を開始。研修等では既に赤ちゃんを25人取り上げており、治療がうまくいった時や赤ちゃんを取り上げた後は「よかったなあ」とやりがいを感じている。現在力を入れていることとして、政府とも連携して薬の無料配布などを行うとともに地域住民の意識向上に取り組んでいる。



ウルミラさん (10年度)

診療所 (SSS) に泊まり込み、24時間体制で助産師の仕事をしている。また帰国してから作った母親グループで家族計画、保健衛生への啓発活動を行いながら育児も、多忙に動きながら、現在は政府登録の助産師を目指し勉強中。息子クサール君はもうすぐ1歳(12月生まれ)。



バスサンさん (11年度)

無農薬で野菜を育てることにチャレンジしている。訪問時には無農薬で作ったキュウリを食べさせてくれた。現在は新しい試みとして換金作物のコーヒーと仏教用の作物栽培に取り組んでいる。成功したら組合で広げたいと意気込む。また組合活動に活かすために、大学の商学部で学ぶ。子どもは5歳に。



アチクマさん (12年度)

12年生の試験が終わり、結果待ち。有機農業に取り組みながら、進学準備を進めている。今後は大学で教育を学んで、村で活かしたいとのこと。



ラダさん (83年度)

約30年前から地域の女性にセーターの編み方を教え、収入向上に取り組む。現在は息子のお連れ合いさん、その友人の3人を中心として現在も活動を続けている。



サヒトリ・シュレスタさん (97年度) 日本語学校で日本語の先生として働く傍ら、ラダさんの編み物グループの一員でもあり、セーター編みのお手伝いもしている。



ラメッシュさん (11年度)

7月に男の子が生まれた。名前は現在(訪問時)考えているところ。日本で学んだ知識を生かしながら養鶏に取り組んでいたが、鳥インフルエンザが発生し、すべて処分した。費用は半分が政府、半分が自分持ちとのこと。



ランマヤさん (12年度)

帰国後、組合で歯や生協店舗設立について話すが挫折。耳を傾けてもらうためにも助産師を目指すことに。

12年生の試験が終わり、ミンクマリさんに引き続き、助産師の学校の試験に150人中8番という優秀な成績で合格。今から2年間バネバにある助産師の学校に通う予定。

インドネシア 帰国研修生短信



ダスウィルさん (99年度)

7月、ソロ郡議会選挙に立候補。投票日は来年の4月9日。12政党から各35名が立候補し、候補者は全体で420人、議席は35席だけという激戦。「議員になると色々できる。道、電気、教育。例えば生活が大変なシランジャイのために道を良くすることなどをがんばりたい」と語り、私財を投入して選挙戦を奮闘中。当選すれば任期は5年。

アルウィさん (01年度)



米と野菜を作り、牛を2頭飼育。餌はサトウキビの搾りかす、草など。山に木が少なくなってきているので、役場から補助を得て、マスラルさんと一緒に2.5万本の苗木を育て植林する予定。苗木は、自宅で作っている。

マスラルさん (05年度)



胃の病気からは、ほぼ回復。農業はお休みしているが、アルウィさんと協力して、村のために橋の建設や苗木を育てる活動などで忙しくしている。



エリザさん (11年度)

昨年12月に電撃結婚、現在妊娠中で12月出産予定。村に幼稚園を作り、ボランティアとして活動。ただし私立で園児も22人なので収入はない。園児10人につき1名の給与が賄える。活動支援金を活用しソロの洋裁の学校に通い、バジュバシーバと呼ばれる民族衣装の作り方を習得。



ヘルマさん (07年度)

去年新しくシランジャイ村に小学校ができ、幼稚園が統合されてヘルマさんも異動し先生に。小学校はまだ教室が2つあるだけの小さな学校で、生徒16人、先生は3人。ただヘルマさんだけ無給。教師の資格を得るために大学に通いたい。問題は学費。「皆様私のこと見守って下さい。もっともっと村のためにがんばります」とヘルマさん。



アリさん (87年度)

村長として奮闘中。今は漁師のために、港を作りたいと考えている。



サマスアリスさん (90年度) 漁師は引退し、今は家族と平穏に暮らす。



ハスマヤニさん (92年度)

隣村の高校と技術高等学校で日本語を教えている。以前は幼稚園で週に3日程、子どもに折り紙、運動や遊びなどを教えていた。自分子どもたちが大きくなり、お金がかかるので、生活をしていくためにボランティア活動はお休みしている。



インドラさん (10年度)

タラタダマ村では有機で3tのお米を作り、鶏も育てている。またセメンタルという肉の質が良い牛を活動支援金で購入。現在2頭で、11月の断食後に牛の価格が上がったところで販売する予定。



ラディア(ラッド)さん (92年度) パダン在住。大学で日本語を教えている。

アフダールさん (00年度)

引き続き村長。タベ村の道を改善するなど、村のための仕事をする傍ら、農業では米、サトウキビ、唐辛子を作り、鶏を約30羽飼っている。



ダルミアティ(ミミ)さん (02年度)

幼稚園、ポシアンドゥ(母子保健プログラム)、町役場の会計の仕事をしている。4年前から通っていた大学での幼児教育の勉強は修了。あとは試験結果を待つのみ。地域の水道グループの会計を担当している。



エルリナさん (03年度)

ミミさんと一緒にポシアンドゥと幼稚園で活動を続けている。末娘がまだ小さく、毎日忙しい。



アフリダさん (04年度)

幼稚園(午前中、3~6才までの園児約20人)と月に1回のポシアンドゥの活動を続けている。現在ポシアンドゥに来る妊婦が7名、乳幼児が35名いる。今は家庭内にトイレや水道ができるなど衛生面の改善により、以前は多かった下痢が、少なくなった。村のグループで、3年前にトイレと水道を普及させるために郡にプロポーザルを書き、資金を調達。便器の費用は郡から出て、便器のみ各戸に配布し、各家庭でトイレを作り設置する仕組み。



ベリスマンさん (08年度)

米と唐辛子を少し。牛1頭と水牛2頭を飼っている。牛は大きく育ててから売る予定。大工の仕事も時々している。



アドリザル(デリ)さん (12年度) 3月に村に帰り、やりたいことはたくさんあるが、まずは田植え、玉ねぎの植え付け、コンポスト作り、牛舎(2頭分)作りに励んでいる。子牛を買い、数年育てて売る予定。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

6月	50件	¥458,150
7月	44件	¥1,456,301
8月	190件	¥1,756,104
9月	49件	¥411,864
333件		¥4,082,419

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

◆西日本研修旅行

1月中旬に約2週間、研修生が西日本各地を訪ねます。各地で学ばせていただくとともに、交流の会をもちます。

近くの方には交流会のご案内をお送りしますので、ぜひお越し下さい。

宮崎～鹿児島～熊本～福岡～山口～広島～岡山

◆今年も連合、自動車総連の皆様よりご寄附をいただきました。

今年も日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」と全日本自動車産業労働組合総連合会「福祉キャンパ特別寄贈」をいただきました。

連合では「働くことを軸とする安心社会」の確立を掲げておられ、その一環としてNPO等をご支援いただいています。また10月28日には「福祉キャンパ特別寄贈」贈呈式が東京であり、坂西が出席させていただきました。

組合員の皆様の力強いご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。

◆2014年度国内研修生2名募集

期間は4月からの約1年間。海外からの研修生と共に学びませんか？

*詳しい案内をお送りします。ご連絡下さい

第32期研修生のホストファミリー募集！



メルティ・アフリダさん
(インドネシア・35歳・女性)



サントウンウーさん
(ミャンマー・22歳・男性)



ムク・マヤ・タマンさん
(ネパール・28歳・女性)

期間：2014年4月中旬～2015年3月中旬の約1年間。来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は、月平均1週間～10日程度。12月～3月は、研修内容により月2/3～3/4程度となります。

経費：当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件：当会事務所から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。

算根交差

「クールジャパン」や「おもてなし」といった言葉に代表されるように、最近では日本のことをもっと知ってもらおうとする動きがますます盛んになっていますが、PHD協会はそのような情報発信活動の先駆けではないかと思えてなりません。毎年海外から研修生を呼び寄せて1年間の研修を行い、その中で日本が物質的な豊かさを享受している

こと、その反面で公害など負の歴史を抱えていることを伝える。直接的ではないにしろ、そのような活動も広い意味での（また深い意味での）国際協力であると言えると思います。私自身も数年前に「同じ買うなら使うなら」の題で何度か会報記事を書かせていただきましたが、今後もPHD協会の更なる情報発信に何らかの形で関わっていただきたいと思います。（編集ボランティア・菅原宗晋）

〇月×日のPHD協会

「研修生とのやりとり」

国内研修生 石川 忍耐の石川、研修時、ブヨに噛まれた跡が消えず、気にしていると「上垣お父さんと研修しましたのシンボル」とダリスマンさん。ナイスフォロー♪

職員 井上 当会のハプニング担当井上。事務所でコードに躓き激しく転倒。すると「肉ちょっと多いですから…」とプレムお父さん。わかっとなるわ！

職員 今里 新米パパ今里、愛娘を抱っこした拍子に腰痛に。立ち上がることもままならない様子にモーママさんが「おじいちゃん」と命名。今やすっかり定着。

職員 坂西 ブログ担当坂西、パッサンさんとインターネットで会話。便利の追求ばかりは良くない、と研修生とも話しつつ、ずるずる。新しい繋がりは何処へ行く？

国内研修生 本田 童顔本田、ダリスマンさんに自己紹介。「28歳です」「それは嘘です」。1ヵ月後、「28歳、私、違うと思います」。そろそろ信じてほしいなあ。

職員 芳田 いつもホットな芳田職員。暑がっているとプレムさんが「私寒いんです」。そして優しい笑顔で「体の中、脂たくさん、暑いです」。うっ、痩せねば。

書き損じた年賀はがきは PHDへお寄せください！

書き損じた年賀はがき、未使用のハガキがありましたら、ぜひPHD協会までお送りください。

郵便局で新しいハガキや切手に交換し、日々の領収書や書類の郵送、行事の案内等に活用させていただいております。

昨年度は皆様から年間18万円相当の書き損じハガキや未使用ハガキをいただきました。今年度もよろしく願いいたします。

編集協力：菅原宗晋、安本真理子、川原桂